

事後評価報告書
(日本-中国(MOST)研究交流)

1. 研究課題名: SNP マーカー選抜による耐乾性ナタネの作出

2. 研究代表者名:

日本側: 東北大学大学院農学研究科 教授 西尾 剛

相手側: Chinese Academy of Agricultural Sciences, Oil Crops Research Institute
Researcher Xue-kun Zhang

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

研究代表者の持つ経験、遺伝資源、解析技術が中国側に供与され、また中国側からも遺伝資源が提供されて相互に利益のある共同研究となり、日本ではなかなか再現できない、乾燥地や半乾燥地における栽培に適応したアブラナ科植物の遺伝資源評価が達成できたことは十分評価できる。時間のかかる育種学分野であるにもかかわらず、短い研究機関の間に論文4編、総説1編が出版されており、綿密な計画のもとに研究が行われたものと判断できるが、研究目的である有害な成分を含まない耐乾性品種の育成に達していないのが残念である。

(2)交流活動の評価について

中国側研究者の一人を、2年間博士研究員として受け入れる等、人的交流がなされた点は評価できるが、それ以外は双方とも短期派遣が延べ5名であり、長期滞在による実験実施など、大学院生やポスドクなどの若手人材育成につながる取り組みが必要であった。乾燥耐性セイヨウナタネに関する国際シンポジウムが開催されるなど、成果に基づいた今後の研究の国際的な発展が期待できる一方、両国間で定期的に行われたセミナーの開催数は物足りなかった。

(3)その他

育種学は長期の時間を要する分野なので、今後の研究継続をどのように図るか検討して欲しい。なお、本課題の予算の殆どが試験研究費に充当されており、国際交流課題という観点からは相応しくないとと思われる。